

改めて思い知らされる自然の驚異

集中豪雨で被害続出（7月13日～15日大雨）



7月13日夜半から15日の午前中にかけて、九州北部付近に停滞した梅雨前線の影響で福岡県各地で集中豪雨による多数の被害が発生しました。特に直方市や飯塚市では、河川の増水により道路の冠水・床上床下浸水が多数発生し、大きな被害を受けました。

本町でもバケツをひっくり返したように雨が降り続き、13日の雨量は174ミリ、14日には194ミリと2日間で、桂川町年間雨量の約4分の1が降りました。これにより、穂波川の豆田橋にある水位計が14日午前8時に210センチ（氾濫危険水位は180センチ）に達し、同時刻で穂波川に近い中屋・寿命・豆田の一部に避難勧告を発令しました。

また、避難勧告発令とほぼ同時に、瀬戸の大楠踏切そばで大規模な土砂崩れが発生し、大量の土砂がJR福北ゆたか線と水田を乗り越え民家一棟を倒壊させる災害が

発生（上写真）。災害発生時に、建物内にいた住民の方は、すぐに駆け付けた消防隊員によって無事救助され軽いけがで済みました。

この災害で、JR福北ゆたか線は、桂川～天道間が2日間にわたって不通となりました。災害発生時の桂川駅は、通勤通学で利用する多くの人々でこった返し、バスなど別の交通手段に切り替える人や、諦めて帰宅する人など大変多くの人々に影響を及ぼしました。

なお、JR福北ゆたか線は、15日午後から夜通しの復旧作業により、16日午前4時過ぎには開通。16日の始発から運行が再開されました。

その後も降り続く雨により、吉隈三区では住宅裏山で地滑りが発生。寿命区では、アパート裏の石垣と斜面が崩れるおそれが出るなど、土砂災害が発生し、あらためて自然災害の恐ろしさを思い知らされた3日間となりました。